

映画「ピース・オン・ウィールズ <生きる>」上映会

三人展「いのち」（木村浩子・山田泰子・知足美加子）



いのちによりそうと、みえてくるものがあります。乳児を世話する、病気の親を看る、農産物を育む、障害をもつ人を手助けする...

生きにくさの中にこそ、生きる実感（いのち）があったのかもしれません。本当の居場所。繋がっている感覚。

生きる葛藤は想像力を広げ、魂に存在感を与えます。その滋養に富んだ魂は、すきとおるように美しく、泣きたくなるほど優しいのです

木村浩子さんの生き様は、私たちの「いのち」に繋がっています。私たちは、互いの想像力を分かち合えます。

浩子さんの最初のドキュメンタリー映画「ピース・オン・ウィールズ <生きる>」が完成しました。本作品の上映会、および「いのち」をテーマにした三人展（木村浩子、山田泰子、知足美加子）を開催いたします。上映会には浩子さんも参加予定です。沖縄から発せられる平和への祈りを共に感じ、語り合いましょう。ぜひご参加ください。

（九州大学助教 知足美加子）

映画「ピース・オン・ウィールズ <生きる>」上映会

5月16日（土） 映画/13:00~14:00
語り合い/14:15~16:00
NPO法人エスタスカーサにて、参加費1000円

*木村浩子さん、山田泰子さんも参加予定

三人展「いのち」<木村浩子・山田泰子・知足美加子>

5月9日（土）~5月17日（日）
11:00~15:00（土日は17:00まで）
NPO法人エスタスカーサにて、観覧無料

NPO法人 エスタスカーサ (福岡市南区弥永2丁目17-1)



木村 浩子(きむら ひろこ)

1937年生まれ。2歳の時、脳性麻痺と診断される。僅かに動く左足で短歌、編み物、水彩画などに挑戦し、絵画に生きる道を見い出した。戦争に異を唱え、1983年より沖縄で「土の宿」を運営している。

山田泰子(やまだ やすこ)

1972年生まれ。1歳の時、脳性麻痺と診断される。幼少時より浩子さんと交流をもつ。1990年代からCG(絵画作品)を制作する。著書に「ねえちょっと聞いて!脳性マヒ女性のトーキングエイド・車イス奮闘記」(向陽舎)

プラブ(シラム) アチャリヤ

本映画について監督のみならず、表現コンセプト、監督、写真、デザイン、撮影、太鼓(インドのタブラとアフリカのジェンベ)そしてダンスの技術を活かし浩子さんの壮大な人生とそのビジョンを映画にまとめている。

知足美加子(ともたり みかこ)

1965年生まれ。彫刻家。九州大学芸術工学研究院助教。筑波大学大学院修了。青年海外協力隊コスタリカ国赴任。国画会・彫刻部準会員。福岡県美術協会会員。農と芸術の協働などに取り組んでいる。

問い合わせ:知足美加子
(tel/fax:092-553-4465
tomotari@design.kyushu-u.ac.jp)
エスタスカーサ
(tel/fax:050-6620-2460
estasucasa@suo.bbiq.jp)
Web:http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~tomotari/hiroko.html